

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	埼玉工業大学
設置者名	学校法人智香寺学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
工学部	機械工学科	夜・通信	4	0	3 2	3 6	1 3	
	生命環境化学科	夜・通信			3 4	3 8	1 3	
	情報システム学科	夜・通信			4 8	5 2	1 3	
人間社会学部	情報社会学科	夜・通信		1 8	4 6	6 8	1 3	
	心理学科	夜・通信			1 2	3 4	1 3	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/information/disclose/shugakushien/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	埼玉工業大学	
設置者名	学校法人智香寺学園	

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/information/disclose/shugakushien/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(宗) 清泰寺代表役員	2025.6.10～選 任後3年以内に 終了する会計年 度のうち最終の ものに関する定 時評議員会の終 結の時まで	
非常勤	(宗) 浄土院代表役員	2025.6.10～選 任後3年以内に 終了する会計年 度のうち最終の ものに関する定 時評議員会の終 結の時まで	
非常勤	緒方法律事務所代表	2025.6.10～選 任後3年以内に 終了する会計年 度のうち最終の ものに関する定 時評議員会の終 結の時まで	コンプライアンス担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	埼玉工業大学
設置者名	学校法人智香寺学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 工学部、人間社会学部の両学部において開講されているすべての科目について、概要、授業方針、アクティブラーニングに関する事項、実務経験に関する事項、学習内容(授業スケジュール)、準備学習、学習到達目標、達成度評価基準、履修上の注意、履修にあたり身に付けておくことが望ましい知識・能力、成績評価方法、成績評価、教科書、参考書・参考文献、参考URLを記載したシラバスを作成している。 各事項の記載内容は、全学共通のシラバス作成ガイドラインを基準としており、授業方法、授業回数、準備学習に必要な時間数、成績評価方法の具体的な割合等についてもシラバス内に明記している。 また、シラバスについては、学生に公開する前に第三者(各学科等の教務委員)による記載内容の確認を行い、シラバス作成ガイドラインに基づいていないと判断したものがあの場合には、個別に修正を依頼している。 第三者による確認の終了後、履修登録期間の開始(4月上旬)と同時に、教務システムLiveCampusU上で学生に公開し、その後、下記のアドレスで公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.sit.ac.jp/gakuseiseikatsu/result/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

工学部の講義科目では、小テスト、中間試験、レポート、定期試験などを課すことで、理解度や学修意欲を把握して成績を評価し、単位認定を行っている。最終的な学修成果は、シラバスに明記している「評価方法」の配分に従い評価し、各科目の「達成度評価基準」を満たした場合に単位認定を行っている。

実験実習科目では、原則としてすべての実験実習テーマへの参加と各テーマのレポートの提出を義務付けている。レポートの内容が不備な場合は単位の認定を行わず、翌年度以降に再履修させている。

演習科目では、適当な数の演習問題を解かせ、レポートとして提出させている。正解数に基づく成績評価点が基準を満たした場合に単位の認定を行っている。

卒業研究では、定期的に研究報告書を提出させたり、進捗状況を適宜発表させたりすることにより卒業研究への取り組み状況を把握している。学年末には卒業研究論文及び論文要旨の提出を課し、さらに卒業研究発表会での発表を義務付けている。これらの条件を満たした場合に卒業研究の単位認定を行っている。

人間社会学部の講義科目では、複数回の小テスト、中間試験、レポート課題、定期試験などを課すことで、理解度や学修意欲を把握して成績評価を行っている。最終的な学修成果は、シラバスに明記している「評価方法」の配分に従い評価し、各科目の「達成度評価基準」を満たした場合に単位認定を行っている。

演習科目では、レポート課題や定期試験、一定時間を要する制作課題を課すことで、理解度の把握と成績評価を行い、「達成度評価基準」を満たした場合に単位認定を行っている。

4年次の卒業研究では、全員に卒業研究題目届、卒業研究（制作・論文）提出を義務付け、学年末の卒業研究発表会を組織的かつ厳格に行っている。さらに定期的な進捗報告と報告書の提出によって卒業研究の取り組み状況を把握している。これらの条件を満たした場合に卒業研究の単位認定を行っている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、下記のとおりG P及びG P Aを算出している。算出方法は大学ホームページ及び学生便覧で公開し、周知している。

G P・G P Aの計算方法

① G P計算式(小数点以下第5位を四捨五入)

イ 成績素点 60 点以上 $G P = 0.075 \times \text{素点} - 3.5$

ロ 成績素点 60 点未満 $G P = \text{素点} \div 60$

ハ 未受験科目(成績評価F) $G P = 0$

② G P A計算式(小数点以下第5位を四捨五入)

$$GPA = \frac{\sum(\text{成績 S, A, B, C, D の科目の GP} \times \text{単位数})}{\text{成績 S, A, B, C, D の科目の総単位数}}$$

- 未受験科目(成績評価F)、認定N・Gの成績がついた科目、進級卒業要件に含まれない教職科目、自由単位指定科目はG P A計算に考慮しない。
- 小数点以下第5位を四捨五入する。
- 再試験の受験者は再試験の成績素点でG P計算しG P A計算に考慮する。再試験未受験の場合は定期試験の成績が最終となる。
- 読替科目は、基本的に読替後科目を計算する。

学生は、自分の年間・累積G P Aを教務システム LiveCampusU で確認することができ、あわせて所属学部・学科のG P A分布を年度別に確認することもできる。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.sit.ac.jp/zaigakusei/result/gpa/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

両学部の全学科において、卒業の認定方針としてディプロマ・ポリシーを策定しており、卒業までに何を学び、何を修得しなければならないか等を明記している。この方針を含む3つの方針は大学ホームページ及び学生便覧において公表し、周知している。

各学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき各学年に適切な科目を配置するとともに、各学年あるいは特定の学年への進級要件を定めており、学生が学修成果を適切に身に付けていくことができるように配慮している。卒業要件は、大学学則及び各学部の履修細則に規定している。また、各学部の履修細則は学生便覧及び大学ホームページで公表している。

なお、卒業条件を満たしたかどうかの判定については、各学科が進級卒業判定会議を開催し、学務課作成の成績資料に基づいて、学生一人一人に対する判定を行っており、その判定結果を各学部の教授会において審議した後、学長が承認している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

- ① 大学ホームページ「教育研究上の3つの方針」内で公表
<https://www.sit.ac.jp/information/houshin/>
- ② 大学ホームページ「学生便覧」内の最新版学生便覧において、現行の大学学則及び学部履修細則を公表
<https://www.sit.ac.jp/binran/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	埼玉工業大学
設置者名	学校法人智香寺学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/gakuen/zaimu/
収支計算書又は損益計算書	ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/gakuen/zaimu/
財産目録	ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/gakuen/zaimu/
事業報告書	ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/gakuen/plan_report/
監事による監査報告(書)	ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/gakuen/zaimu/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/information/gaiyou/hyouka/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部、人間社会学部
教育研究上の目的（公表方法：公表方法：ホームページによる公表） https://www.sit.ac.jp/binran/kitei/
（概要） 学則第 1 条に以下のとおり掲載している。 第 1 条 埼玉工業大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育 法に基づき、学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、仏教精神により個性豊かにして教養ある社会人を育成することに努め、もって人類の平和と福祉に貢献し、かつ、我が国の文化及び産業の発展に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（（公表方法：ホームページによる公表） https://www.sit.ac.jp/information/disclose/shugakushien/
（概要） 両学部の全学科において、卒業の認定方針としてディプロマ・ポリシーを策定しており、卒業までに何を学び、何を修得しなければならないかを明記している。この方針を含む 3 つの方針は大学ホームページ及び学生便覧において公表し、周知している。 各学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき各学年に適切な科目を配置するとともに、各学年あるいは特定の学年への進級要件を定めており、学生が学修成果を適切に身に付けていくことができるように配慮している。卒業要件は、大学学則及び各学部の履修細則に規定している。また、各学部の履修細則は学生便覧及び大学ホームページで公表している。 なお、卒業条件を満たしたかどうかの判定については、各学科が進級卒業判定会議を開催し、学務課作成の成績資料に基づいて、学生一人一人に対する判定を行っており、その判定結果を各学部の教授会において審議した後、学長が承認している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページによる公表） 工学部 https://www.sit.ac.jp/information/houshin/kougaku/ 人間社会学部 https://www.sit.ac.jp/information/houshin/ningenshakai/
（概要） カリキュラム・ポリシー（CP）として公表している。 【工学部】 機械・ロボット、バイオサイエンス・環境・エネルギー・応用化学、IT・AI・電気電子・自動運転などのスペシャリストとして活躍でき、社会からの要求（地域貢献・社会実装）に応えることのできる人材を育成するために、機械工学・生命環境化学・情報システム分野の専門科目と教養科目とをバランス良く配置して、講義、実験、実習、演習などの教育方法により、学位取得のために身に付けるべき専門的及び基礎的な知識・能力・技術などを教授し、授業科目ごとの学習到達目標を明確にして厳格な成績評価を行うようなカリキュラムを編成する。 【人間社会学部】 経営、情報、文化、メディア、デザイン、心理学などの分野におけるスペシャリストを養成するため、教養科目と専門科目、および講義科目と実験、実習、演習などの科目間バランスを考慮したカリキュラム体系の下、基礎から応用にいたるまで十分な知識を教授する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページによる公表） 工学部 https://www.sit.ac.jp/information/houshin/kougaku/ 人間社会学部 https://www.sit.ac.jp/information/houshin/ningenshakai/

(概要)

アドミッションポリシー（AP）として公表している。

【工学部】

工学部は機械、生命環境化学、情報システムの分野で科学技術に対する勉学を志し、自ら積極的に学んだ知識を用いて社会の発展に貢献する希望と意欲をもつ学生を受け入れる。

【人間社会学部】

【2026 年度入学生】

経営、情報、文化、メディアコンテンツ、心理学の分野に強い興味や関心を持ち、自ら積極的に学んだ知識、技能を用いて社会の発展に貢献する希望と意欲をもつ学生を受け入れる。

【2027 年度入学生】

経営、情報、文化、メディア、デザイン、心理学の分野に強い興味や関心を持ち、自ら積極的に学んだ知識、技能を用いて社会の発展に貢献する希望と意欲をもつ学生を受け入れる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページによる公表

<https://www.sit.ac.jp/binran/kitei/>

学則第2条に以下のとおり掲載している。

第2条 本学に次の組織を置く。

大学院工学研究科

博士前期課程 機械工学専攻 生命環境化学専攻 情報システム専攻

博士後期課程 機械工学専攻 生命環境化学専攻 情報システム専攻

大学院人間社会研究科

修士課程 情報社会専攻 心理学専攻

工学部

機械工学科 生命環境化学科 情報システム学科

人間社会学部

情報社会学科 心理学科

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4 人	－					4 人
工学部	－	31 人	42 人	5 人	0 人	0 人	42 人
人間社会学部	－	12 人	18 人	2 人	1 人	0 人	18 人
付属研究所	－	1 人	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人
その他	－	1 人	3 人	2 人	0 人	0 人	3 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		142 人					68 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/information/disclose/kyouin/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	360 人	339 人	94%	1440 人	1419 人	98%	若干名	2 人
人間社会学部	140 人	148 人	105%	560 人	563 人	100%	若干名	1 人
合計	500 人	487 人	97%	2000 人	1982 人	99%	若干名	3 人
（備考）令和 6 年度より、工学部在学生数の中に、総合工学系に所属する学生を含む。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
工学部	335 人 (100%)	14 人 (4%)	296 人 (89%)	25 人 (7%)
人間社会学部	141 人 (100%)	3 人 (2%)	124 人 (88%)	14 人 (10%)
合計	476 人 (100%)	17 人 (4%)	420 人 (88%)	39 人 (8%)
（主な進学先・就職先）（任意記載事項）				
（備考）				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 工学部、人間社会学部の両学部において開講されているすべての科目について、概要、授業方針、アクティブラーニングに関する事項、実務経験に関する事項、学習内容(授業スケジュール)、準備学習、学習到達目標、達成度評価基準、履修上の注意、履修にあたり身に付けておくことが望ましい知識・能力、成績評価方法、成績評価、教科書、参考書・参考文献、参考 URL を記載したシラバスを作成している。 各事項の記載内容は、全学共通のシラバス作成ガイドラインを基準としており、授業方法、授業回数、準備学習に必要な時間数、成績評価方法の具体的な割合等についてもシラバス内に明記している。 また、シラバスについては、学生に公開する前に第三者(各学科等の教務委員)による記載内容の確認を行い、シラバス作成ガイドラインに基づいていないと判断したものがある場合には、個別に修正を依頼している。 第三者による確認の終了後、履修登録期間の開始（4月上旬）と同時に、教務システム LiveCampusU 上で学生に公開し、その後、大学ホームページにおいて公表している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 工学部の講義科目では、小テスト、中間試験、レポート、定期試験などを課すことで、理解度や学修意欲を把握して成績を評価し、単位認定を行っている。最終的な学修成果は、シラバスに明記している「評価方法」の配分に従い評価し、各科目の「達成度評価基準」を満たした場合に単位認定を行っている。 実験実習科目では、原則としてすべての実験実習テーマへの参加と各テーマのレポートの提出を義務付けている。レポートの内容が不備な場合は単位の認定を行わず、翌年度以降に再履修させている。 演習科目では、適当な数の演習問題を解かせ、レポートとして提出させている。正解数に基づく成績評価点が基準を満たした場合に単位の認定を行っている。 卒業研究では、定期的に研究報告書を提出させたり、進捗状況を適宜発表させたりすることにより卒業研究への取り組み状況を把握している。学年末には卒業研究論文及び論文要旨の提出を課し、さらに卒業研究発表会での発表を義務付けている。これらの条件を満たした場合に卒業研究の単位認定を行っている。
--

人間社会学部の講義科目では、複数回の小テスト、中間試験、レポート課題、定期試験などを課すことで、理解度や学修意欲を把握して成績評価を行っている。最終的な学修成果は、シラバスに明記している「評価方法」の配分に従い評価し、各科目の「達成度評価基準」を満たした場合に単位認定を行っている。

演習科目では、レポート課題や定期試験、一定時間を要する制作課題を課すことで、理解度の把握と成績評価を行い、「達成度評価基準」を満たした場合に単位認定を行っている。

4年次の卒業研究では、全員に卒業研究題目届、卒業研究（制作・論文）提出を義務付け、学年末の卒業研究発表会を組織的かつ厳格に行っている。さらに定期的な進捗報告と報告書の提出によって卒業研究の取り組み状況を把握している。これらの条件を満たした場合に卒業研究の単位認定を行っている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	機械工学科	124 単位	有・無	単位
	生命環境化学科	124 単位		
	情報システム学科	124 単位	有・無	単位
人間社会学部	情報社会学科	124 単位	有・無	単位
	心理学科	124 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページによる公表

<https://www.sit.ac.jp/information/disclose/kyouin/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	全学科 1 年	850,000 円	220,000 円	470,000 円	施設設備費 実験実習費
	全学科 2 年	850,000 円	220,000 円	520,000 円	施設設備費 実験実習費
	全学科 3 年	880,000 円	220,000 円	520,000 円	施設設備費 実験実習費
	全学科 4 年	850,000 円	220,000 円	570,000 円	施設設備費 実験実習費 卒業研究費
人間社会 学部	全学科 1 年	750,000 円	220,000 円	270,000 円	施設設備費
	情報社会 学科 2 年	750,000 円	220,000 円	270,000 円	施設設備費
	情報社会 学科 3 年	780,000 円	220,000 円	270,000 円	施設設備費
	情報社会 学科 4 年	750,000 円	220,000 円	270,000 円	施設設備費
	心理学科 2 年	750,000 円	220,000 円	320,000 円	施設設備費 実験実習費
	心理学科 3 年	780,000 円	220,000 円	320,000 円	施設設備費 実験実習費
	心理学科 4 年	750,000 円	220,000 円	320,000 円	施設設備費 実験実習費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 学生の能力に応じた補習教育、補充教育は、学生への学習支援を目的として、図書館 1 階に学習支援センターを開設している。ここでは、学習相談や支援セミナー、ワークショップなどを実施している。学習相談では、語学をはじめとした人文系科目から理数系科目までの広い領域を専門とするチューター(教員)と、ティーチングアシスタント(大学院生の T A)が、学生の自主的な学習をサポートしている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 学生の就職指導と斡旋ならびに企業等に対する本学の P R、就職先開拓のため、学内に キャリア支援センター、キャリア支援課、就職委員会が設けられている。キャリア支援センター、キャリア支援課では、就職を希望する学生に対して、就職活動準備講座（筆記試験対策・各種業界研究・面接対策研修・エントリーシート対策・履歴書対策等）、就職ガイダンスを行い、個別相談にも応じている。また、学生は、希望の企業に応募することはもちろん、教授名で推薦を受ける『教授推薦』制度も利用できる。また、1 年次から本学に寄せられる多くの求人情報データの閲覧が可能。学籍番号・パスワードを用いて、本学ホームページから本学専用の「S A I K O ナビ」にアクセスすることで、学内はもとより自宅のパソコンやスマートフォン等からも簡単に求人情報を検索できるようにしている。また、同ナビ上で就職活動準備講座等の申込みもできるようにしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の悩み事への相談に対しては、学務課職員・学科の学生委員・学生相談室・学習支援センター等さまざまな組織が相互に連携して対応している。近年、心理的疾患を抱えた学生が増えており、学生相談室を重要な組織として位置づけている。

学生相談室には、専門の学生相談員（臨床心理士）を配置し、学生生活全般、家庭生活、人間関係、勉強、進路、将来のことなど、何か心配なことや不安なことに悩んでいることを気軽に相談することができる体制としている。

学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮として、学生の健康管理を目的に学校保健安全法に基づく健康診断を実施している。新入生は4月上旬（新入生オリエンテーション期間）、在学生は3月下旬に全学生が受診できるように実施日を設定している。健康診断は、校医の指導のもと、深谷寄居医師会メディカルセンターと学務課の3者が連携し、慎重に進めている。健康診断の結果、病気・病変などが明らかになったときはメディカルセンターから要注意者の報告を受け、学務課が該当学生に病院等で検査するように指導している。なお、日常的なけがや体調不良については、保健室を設置して対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページによる公表

<https://www.sit.ac.jp/information/disclose/kyouin/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。